

国際競争力強化プロジェクトを支える 広域幹線道路の整備促進要望について

当地域は、自動車関連工業を中心とする産業の集積により、世界有数の産業圏域として、今や世界経済の中で大変重要な一角を占めています。今後も、当地域が、「モノづくり」などの拠点として、引き続き世界経済をリードしていく役割を十分に果たすためには、産業の国際競争力の一層の強化が不可欠であり、経済のグローバル化に対応した国際物流拠点の形成など、豊かで活力ある地域づくりを官民一体となって進めていく必要があります。

こうした中、スーパー中枢港湾である名古屋港は、総取扱貨物量が平成14年以降全国第1位であり、次世代高規格コンテナターミナル等の整備により今後もさらに増加が見込まれております。

また、中部国際空港は、成田国際空港・関西国際空港と並ぶ国際拠点空港として航空輸送の発展に大きく貢献しており、引き続き当地域が担うべき役割を果たしていくうえで、早期の完全24時間化に向けて、2本目の滑走路が必要であります。

今後とも、日本が、急成長するアジアはじめ諸外国との競争に打ち勝ち発展していくためには、当地域において、これらの国際物流拠点を結ぶ広域幹線道路ネットワークのスピード感ある整備を行い、陸・海・空一体となった総合的な交通体系を構築することが不可欠であります。

よって、当地域の広域幹線道路ネットワークの1日も早い構築に向け、次の点について格段のご配慮をいただきますようお願い申し上げます。

- 1 第二東名高速道路（豊田東ジャンクション以東）については、1日も早く供用を図っていただきたい。

2 名古屋環状2号線について

- (1) 東部・東南部（名古屋南ジャンクション～高針ジャンクション間）については、1日も早く供用を図っていただきたい。
- (2) 西南部・南部（名古屋西ジャンクション～飛島インター間）については、三大都市圏の環状道路の一つに位置づけられており、スーパー中枢港湾である名古屋港への広域的なアクセス道路であるため、**早期に事業着手を図っていただきたい。**

3 新名神高速道路、東海北陸自動車道、近畿自動車道紀勢線、中部横断自動車道について、整備促進を図っていただきたい。

4 高速道路を有効に活用し、地域の交通混雑や沿道環境悪化などの課題解決を図りつつ物流コストを低減するため、高速自動車国道より相当割高である伊勢湾岸道路の通行料金の大幅な値下げや、名古屋環状2号線（東名阪自動車道）と名古屋高速道路等を連続利用する場合における通行料金の割引など、高速道路全般における多様で弾力的な料金施策の実施に、より一層積極的に取り組んでいただきたい。

平成20年7月

名古屋商工会議所会頭

岡田 邦彦

社団法人中部経済連合会会長

川口 文夫

中部国際空港株式会社代表取締役社長

稲葉 良暁